

## 長野濬平翁生誕 200 周年記念シンポジウム 講演録

～熊本県の近代蚕糸業の祖 長野濬平翁生誕の地 山鹿からシルクの郷へ紡ぐ未来  
とき 2023（令和6年）10月15日（日）午後1時30分から午後4時  
ところ 山鹿市民交流センター 文化ホール

### 1 実行委員長あいさつ

長野濬平翁生誕 200 周年記念事業

実行委員長 中嶋憲正



皆さん、こんにちは。本日はご多用の中にも関わらず、多くの方々にお集まりいただき、厚く御礼申し上げます。また、山鹿市長をはじめご来賓の皆さまも、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、今回のテーマである長野濬平翁は、鹿本町の出身で幕末から明治にかけて近代蚕糸業の祖として活躍され、いくつもの困難を乗り越えて、熊本を全国有数の養蚕地へと押し上げ、熊本県の経済界に大きな影響を与えました。

養蚕業が果たした大きな功績として、「軍艦と絹」という言葉があります。明治維新以来、世界の列強と競っていくために、富国強靱は国政の大きな柱でありました。絹を輸出した金で軍艦を買い、日本国を世界と伍する国家に成長させたのであります。そういうことを考える時、改めて長野濬平翁の

着眼点と御貢献に頭の下がる思いであります。

今年令和5年は、濬平翁の生誕 200 周年の節目であることから、長野濬平顕彰会と山鹿市が実行委員会を組織し、濬平翁の功績の周知と、養蚕業の未来を考えるシンポジウムを開催することと致しました。濬平翁の功績については、テレビ熊本で8年前に制作・放映された、濬平先生のドキュメンタリーのダイジェスト版とスライドを交えたご説明でお伝えいたします。

さて、これからの新しい養蚕業について今後を見通していくことを目的として、基調講演とパネルディスカッションを予定しております。日本の蚕研究の第一人者である、農研機構の瀬筒秀樹先生に「動き出した蚕業革命」というテーマでご講演いただきます。そして、パネルディスカッションには、養蚕業の未来にあたって、研究・活動されている3名の先生方に「山鹿からシルクの郷へ紡ぐ未来」というテーマでディスカッションを行います。

かつては養蚕が盛んだった山鹿市でも現在養蚕農家は2軒のみとなっております。需要がなくなったわけではございません。今回、山鹿で作られた繭から着物をつくりたいというお話をいただき、養蚕農家の花井さんをはじめ、多くの方々のお力により着物ができあがりしました。その着物ができるまでの過程を動画にまとめてもらいまし

たので、最後にご披露いたしたいと思っております。

なお、ロビーでは、濬平翁の功績をまとめた年表のパネル展示のほか、山鹿の繭から山鹿の方が織った着物を展示しております。また、ご覧でない方はお帰りの前にぜひご覧ください。

今回の記念事業にあたりましては、講師の先生方のほか、着物の掲示にご協力いただいた方にも、多くのご協力をいただいております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

最後になりますが、本日のシンポジウムでは濬平翁の功績と山鹿における養蚕業の将来性に目を向けていただくきっかけになればと願うとともに、本日ご参加の皆さまのご健勝をお祈り申し上げて、挨拶とさせていただきます。

## 2 来賓あいさつ

山鹿市長 早田順一 様



みなさん、こんにちは。ご紹介いただきました、山鹿市長の早田でございます。本日は、長野濬平翁生誕 200 周年記念シンポジウムの開催、心からお祝いを申し上げます。

長野濬平さんは、熊本県の近代養蚕業の道を切り開いた人であり、山鹿市の偉人でございます。山鹿市では近代山鹿の偉人誌の冊子作成や市のホームページで紹介するなどして顕彰を行っているところでございます。また、市民有志の方々により長野濬平さんを顕彰する会が結成をされ、今日までその偉業が語り継がれていることは、長野さんの偉大さと、それを顕彰されている方々の情熱と努力によるものと深く敬意を表します。

また、本日のシンポジウムの開催にあたりまして、実行委員会をはじめ、顕彰会のみなさまにも多大なるご尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

本日のシンポジウムでは、長野濬平さんの業績を振り返ることに加え、基調講演とパネルディスカッションなどが予定されていると伺っております。日本の新しいシルク業に向け、東京大学でも客員教授として第一線で研究をされている瀬筒秀樹先生を

はじめ、シルクに関わり活躍されているみなさまにおいでいただいておりますので、貴重なお話が聞けることと大変楽しみにしております。

パネルディスカッションでは、あつまる山鹿シルクの島田社長にもパネリストとして登壇いただきます。ご本人からもお話があるかもしれませんが、あつまる山鹿シルクは、蚕の餌となる桑畑の管理をはじめ、無菌養蚕という最先端技術による安定した養蚕をこの山鹿の地で行われています。高品質なシルクによる製品は、国内はもとより海外でも高い評価を得ています。

本日のシンポジウムが山鹿市のシルクに対しての興味・関心の更なる向上につながるものと期待します。最後になりますが、本日のシンポジウムが、ご来場のみなさまにとって有意義な時間となりますよう祈念しますとともに、シルクの未来がますます発展することを願ひまして、挨拶とさせていただきます。

山鹿市議会議長 服部香代 様



みなさま、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、市議会議長の服部でございます。本日は市議会議員も出席しておりますが、代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は長野濬平翁生誕 200 周年記念シンポジウムの開催、誠におめでとうございます。長野濬平翁は、40 代後半から全国の養蚕先進地を視察し、当時の熊本藩に桑の植樹や養蚕試験所の設立を提言され、殖産興業と輸出貿易の振興を目指して長年にわたり養蚕・製糸業の発展に尽くされた人物でございます。長野濬平翁が明治 29 年に熊本県で初めて勅定緑綬褒章を受賞されるまで、幾度も過酷な試練に見舞われ、不屈の精神でお乗り越えになられたとお聞きしております。長野濬平翁の努力から生まれた、山鹿の農産・製糸業は市民有志の顕彰会のみなさま方に支えられて、また、株式会社あつまる山鹿シルクさんで行っていただいている「SILK on VALLEY」構想など、形を変え現代へ脈々と受け継がれております。長野濬平翁の偉大な功績とそれを顕彰するみなさま、そして、日本の新たなシルク産業を担っていただいているみなさまに心から敬意を表しまして、益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。